



ともに生きよう

2007年5月27日

府中市中央文化センター ひばりホール

主 催： 東京武蔵府中ロータリークラブ  NPO法人 ともにいきる

後 援：府中市教育委員会・府中市社会福祉協議会・府中市身体障害者福祉協会
府中市民生委員児童委員協議会・府中市人権擁護委員の会
国際ソロプチミスト東京府中・社団法人むさし府中青年会議所

----- 主催者挨拶 -----

今年4月上旬のNHKニュースは、「障害者や社会的弱者に対する偏見や差別がある、と思う人が80%いる」と報じました。私どものロータリークラブは、今年の指針を「寛容と思いやりをもって」と定め、活動しております。

今回、その一環として「ともに生きよう」をテーマにNPO法人「ともに生きる」の皆様と共催し、二部に分けてお話を聴くことになりました。

近年、環境・障害者・高齢化など、多くの問題が注目されています。このことについて私たちはどのように行動すべきか、を一緒に考えていただければ幸いです。

東京武蔵府中ロータリークラブ 会長 大熊 茂由

本日はみなさまにおいて頂きありがとうございました。私達が毎日生活している町には、いろいろな方が暮らしています。

その中には、車いすや松葉づえの障害のある人はもちろん、外からは見えない内部障害を持つ方などもいらっしゃいます。

元気で暮らしていると普段気にもかけないこのような方達に、ほんの少しだけ関心を持って頂けるよう、今回の催しがそんなきっかけ作りになれば私達大変嬉しいです。

NPO法人 ともに生きる 理事長 畠山 尊子

プログラム

開会挨拶 大熊 茂由（東京武蔵府中ロータリークラブ 会長）

第1部 1:30～2:15 講演会

● 使い手から学ぶくらしのデザイン

講師：中川 聡（環境・福祉デザイナー）

===== 休憩 =====

第2部 2:30～3:30 わたぼうし語りの会 公演

● めざしのジョニー

福角 幸子

● ひとりぼっちのミミズ

上埜 英世

● もりおとこのしごと

伊藤 愛子

● 彼岸花

福角 幸子

閉会挨拶

畠山 尊子（NPO法人 ともに生きる 理事長）

===== 講師紹介 =====

中川 聰

トライポッド・デザイン株式会社 代表取締役
トライポッド・プロダクツ株式会社 代表取締役
Tripod Design New York, Inc. 代表取締役

東京、ニューヨーク、アジアを中心に活動。
独自のユーザー解析理論を基にしたデザインプロセスを応用し、国内外の企業と「一人一人の使い手を尊重した」数多くの製品企画やデザイン開発に携わる。

2002年、ビジネスとしてユニバーサルデザインを実践するための解説書として「ユニバーサルデザインの教科書」(日経BP社発行)を監修し、自らのユニバーサルデザイン実践における考え方を集約した。本書の第2弾として、2005年に「ユニバーサルデザイン実践マニュアル」を更に監修し、UD製品開発事例などを紹介することにより、更に詳細かつ具体的な実践方法を明示すると共に、引き続き「ユニバーサルデザインの教科書」改訂版の監修にも携わる。

一方、2005年度にはジェトロ(日本貿易振興機構)主催による「ユニバーサル・クラフト・ジャパン」展を監修。日本の優れたユニバーサルデザインクラフト製品を公募、厳選し、展示を行った。同年9月には、パリのMAISON & OBJETで開催される見本市へ出展のほか、同月には韓国ハンガラムデザイン美術館にて「第2回ユニバーサルデザイン展」を開催。更に、同年10月には、東京ビッグサイトにて「危機管理産業展2005」を実施。



===== わたぼうし語り部座の紹介 =====

障害のある人たちのアートは、心をドキドキワクワクさせる不思議な力があります。また、観る者を元気づけたり、勇気づけたり、癒したりする力もあります。

私たちは、このようなアートをきちんと評価し、障害のある人たちの精神的な活動に価値を与え、社会的イメージを高めようと、1995年に「エイブル・アート・ムーブメント」を提案し、さまざまなプロジェクトを展開しています。



その一つに「わたぼうし語り部プロジェクト」があります。これは、障害のある人たちが、障害を個性として生かし、民話や創作童話、自分史などに思いを重ね合わせ、聞く人たちの魂に働きかけるパフォーマンス活動です。

私たちは、1989年に「わたぼうし語り部学校」を開校し、多くの語り部たちを生み育ててきました。5年前よりこの学校の卒業生を中心に「わたぼうし語り部塾」を開講し、より具体的で、より専門的な学びの場を創造しています。

1992年には、プロの語り部の登竜門として「わたぼうし語り部コンクール」を開催、同年、プロの語り部集団「わたぼうし語り部座」を旗揚げし、全国公演を行っています。また、語り部たちが語り部たちによる自主的な活動を展開しようと「わたぼうし語り部の会」も組織されています。

現在「わたぼうし語り部座」は7名、「わたぼうし語り部の会」は20名の個性豊かなメンバーによって構成されています。今回は、このなかでも特に選りすぐりの3人が極上の語り口を披露してくれます。

「わたぼうし語り部座」は、その名のとおり、風に吹かれて飛んでいく“わたぼうし”です。

この東京でもきれいなたんぽぽの花が咲くことを心から願っています。



わたぼうし語りの会 出演者たちのプロフィール

===== 伊藤 愛子 =====

奈良市在住。

- 2001年 「わたぼうし語り部」として舞台上で語っていた友人にあこがれ、語りに取り組みはじめる。「第10回わたぼうし語り部コンクール」に「もりおとこのしごと」で出場し、審査員会特別賞を受賞する。
- 2002年 「もりおとこのしごと」の作者である絵本作家・あきやまただしさんとジョイント公演をおこなう。
- 2003年 はじめてガムランと出会い、その世界に魅せられ、パフォーマーとしての新しいチャレンジがはじまる。

現在、わたぼうし語りの会会員、社会就労たんぼぼの家のメンバー。

===== 上埜 英世 =====

- 1960年 奈良県生駒市に生まれる。(現在は奈良市在住)
- 1979年 奈良県立明日香養護学校高等部卒業
- 1980年 たんぼぼの家の完成に伴い、自立プログラムのメンバーとなる。「たんぼぼ自由学校」ではなし教室が開講され受講生となる。
- 1983年 生駒市で開催した「愛と哀の人間ばなし」で、俳優の沼田曜一氏の前座をつとめる。(わたぼうし語り部の誕生)
- 1985年 「全国身体障害者芸術コンクール」で特別賞を受賞する。「NHK青年の主張」奈良県予選で優秀賞を受賞する。
- 1989年 「国際ソロプチミスト奈良」婦人向上賞を受賞する。
- 1992年 奈良で開催した「わたぼうし語り部芸術祭」に出演する。プロの語り部一座「わたぼうし語り部座」を結成、全国巡業がはじまる。「第1回わたぼうし語り部コンクール」において、「ひとりぼっちのミミス」でパイオニア賞を受賞する。
- 1993年 「第2回わたぼうし語り部コンクール」に「花咲き山」で出場する。
- 1995年 国立文楽劇場で地唄舞の梅茂都梅衣華さんと共演、源氏物語「葵の上」の口上を語る。同演出、インド公演を実現する。「第4回わたぼうし語り部コンクール」において、「葵の上」でグランプリを受賞する。
- 1997年 東京芸術劇場で開催して「わたぼうし語り部座～語りの天粋～」(アジア太平洋障害者の十年・中間年記念芸術祭“アジアの風”協賛事業)に出演する。福祉ホーム「コットンハウス」で自立生活を始める。
- 1998年 「わたぼうし語り部・九州ツアー」に同行する。

現在、わたぼうし語りの会会員

===== 福角 幸子 =====

神戸市に生まれる。大阪府堺市在住。

- 1980年 親元を離れ、自立生活を始める。
- 1986年 結婚
- 1990年 「わたぼうし語り部学校」の第1期生となり、「わたぼうし語り部」の世界を学ぶ。
- 1991年 「第16回わたぼうし音楽祭」の作詩作曲の部において、「おどってる」で入選する。
- 1992年 「第1回わたぼうし語り部コンクール」において、「チューインガムひとつ」でグランプリを受賞する。
- 1994年 「第3回わたぼうし語り部コンクール」において、「じろきちおおかみ」で夫・福角宣弘との二人語りに挑戦する。
- 1996年 「第5回わたぼうし語り部コンクール」に、「一人暮らしの出来事」で出場する。
- 1998年 「みんないっしょのコンサート」('98~'99年)で司会をつとめる。
- 1999年 「アジア太平洋 VSA フェスティバル in OSAKA '99」に出演する。「第8回わたぼうし語り部コンクール」において、「彼岸花」で審査員会特別賞を受賞する。
- 2000年 絵本「めざしのジョニー」(学研)を出版する。
- 2001年 「第10回わたぼうし語り部コンクール」において、「めざしのジョニー」で準グランプリを受賞する。

現在、わたぼうし語りの会会長。

わたぼうしコンサート、学校、地域のイベントなどにひっぱりだこで、全国各地で「車イスの語り部」として大活躍。また、岩井ゆき子(ジャズシンガー)、内海淳子(インディアンハーブ)、新屋英子(役者)、丸山祐一郎(民族楽器奏者)など、さまざまな人たちとコラボレーションを行っている。

残された可能性に挑戦しながら語ることで、『やればできる!』ということを一でも多くの人たちに伝えたい、生命の尊さや人を思いやる心を伝えたい。

夢は夫と二人で紙芝居屋になること。歳を重ねるごとに深みのある語りを語っていききたい。



東京武蔵府中ロータリークラブ

電話 042-360-6655 Fax 042-360-6363 <http://www.musashifuchu-rc.org>

NPO法人 ともに生きる

電話 03-5285-5067 Fax 03-3208-1655 <http://www.normanet.ne.jp>